



今月の題字
けん と
鈴木健斗君
(大沢小4年)

田町のわだい

商工会珠算検定

鳥居君(南小3年)が2級を取得

山田南小3年の鳥居海浄君が、商工会珠算検定の2級を取得しました。試験は9月16日に行われ、県内では46人が受験。合格者12人という難関を乗り越え、見事合格しました。元珠算塾経営の祖父次男さんから教えを受け、5歳からそろばんを習い始めた鳥居君。「計算が好きなので、そろばんは楽しいです。学校の授業も算数が一番好き」と明るく答えます。今月18日には1級の試験に挑戦する予定で、合格に向け毎日の練習に力が入ります。



障害者団体で交流会を開催 歌やゲームで親睦を深める

10月20日、船越家族旅行村で障害団体お楽しみ交流会が行われました。これは、障害者団体同士の交流を図るため実施されたもので、山田町手をつなぐ親の会や身体障害者協議会、のんびり会の会員など77人が参加。ボランティアの人たちによるアコーディオンの演奏や玉入れゲームなどが催され、参加者は歌やゲームを通じて親睦を深めていました。その後、手をつなぐ親の会の皆さんから豚汁やサンマなどが振る舞われ、秋の味覚に舌鼓を打っていました。



町民体育祭に1,200人 豊間根地区3年連続の優勝

10月2日、町民体育祭が町民グラウンドを会場に開かれました。36回目となる今年は11地区1,200人が参加。清々しい秋晴れの下、参加者は優勝目指して各種競技や応援に熱戦を繰り広げました。結果、「団結がんばろう」(綱引き)など後半戦の種目で高得点を重ねた豊間根地区が3年連続で優勝。準優勝は轟木地区、3位は荒川地区でした。また、地区対抗の応援合戦では、児童と保護者による息の合ったダンスと見事なチアリーディングを披露した轟木地区が、2年連続で応援賞を受賞しました。



大浦小で創立130周年記念式典 伝統胸にさらなる発展誓う

10月21日、大浦小学校(館澤卓宏校長・児童52人)の創立130周年記念式典が同校体育館で開かれ、児童や地区民など150人が出席しました。式典では記念事業実行委員会の阿部金一会長の式辞に続き、館澤校長が「輝かしい歴史と伝統は学校と家庭、地域との連携のたまものです」とあいさつ。同実行委員会から同校に給食設備や放送設備などが贈られたほか、同校の歴代校長、PTA会長、学校協力者に感謝状が贈呈されました。アトラクションとして児童による合唱やさんさ踊りなどが披露された後、全員で校歌を斉唱、同校のさらなる発展を誓いました。

そば打ち体験と試食会 満足な出来に笑みがこぼれる

10月4日、山田町認定農業者連絡協議会(藤原長一会長)が主催するそば打ち体験と試食会が開かれました。町中央コミュニティセンターを会場に行われ、町民30人が参加。成谷自然食の会の岩脇ヨシエ会長(久慈市)の指導で、そば打ちに挑戦しました。参加者は豆腐と卵を混ぜたそば粉を交代でこね、のし棒で薄く延ばした後、そば切り包丁で細長く切る作業を行いました。最後に自分たちが打ったそばを試食。満足な出来栄に、皆さんからは笑みがこぼれていました。



上豊間根自治会 交流会館の落成祝賀会 新たな活動拠点の完成祝う

上豊間根自治会(木村和夫会長・124世帯)のコミュニティ活動の拠点となる上豊間根自治交流会館が完成し、10月21日、地区民や関係者など70人が参加して落成祝賀会が開かれました。会館は、住民協働の取り組みとして同自治会が町の助成を受けて建設したもので、構造は木造平屋建て、延べ床面積は187.15平方メートル。地元の木材がふんだんに使われ、ぬくもりのある優しい造りとなっています。祝賀会では、木村会長が「子供会や老人クラブなど地区民の交流の拠点として大切にしていきたい」とあいさつ。沼崎喜一町長は「町の歴史に残る住民協働事業で建てられた初の施設を活用し、さらに地区が振興していくことを願います」と祝辞を述べました。祝宴では地区民による歌や踊りが披露されるなど、参加者みんなで会館の完成を祝っていました。

